

聴覚を活かす教育のための評価と指導チェックリスト

平成7年度から2年間にわたり、聴覚障害児のコミュニケーションを促進するために、聴覚活用の評価法と指導法について研究協議を重ねてきた。研究組織としては筑波技術短期大学教育方法開発センターの大沼直紀、東北大学教育学部の菅井邦明、横浜市立戸塚小学校の新宮絹子、横浜市立共進中学校の舞菌恭子、横浜市立聾学校の長谷房代、東京都大田区立入新井第一小学校の村上宗一(平成7年度)、それに研究協力校として武蔵野市立第一中学校(山中ともえ)の各先生方である。私どもからは主に難聴教育研究室の中川辰雄と佐藤正幸が担当した。難聴児の指導事例を中心にして、聴覚障害児の学校や家庭での聴覚を活かす教育についての評価の観点を協議した。ここで示す資料はその試案であり、今後さらに研究協議を重ね、さらに教育現場での活用を通して改善をはかっていきたい。

利用方法についてはいくつか考えられる。その一つとして、教師自身の指導の観点に対するチェックリストとして使用することも可能であろうし、また現在指導している子供の聴覚活用のレベルを評価することにも利用できるのではないかと考えている。利用法も含め皆様からの忌憚の無いご意見を頂戴したい。

平成9年3月

聴覚・言語障害教育研究部

部長 菅原廣一

利用法：

- ・チェックリスト中で で囲った部分はチェックする時の条件を表す基本項目を示す。
- ・リスト中で で囲った部分はコミュニケーションを行う上の手段を示す。
- ・リスト中で で囲った部分はチェックすべき項目である。チェックすべき項目には _____ が設けられていて、印を付けることができるようになっている。